

基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1 - 1 - : 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観念に係る状況)

『本校の教育理念』は、豊かな教養を基盤として、高等の専門科学技術を体得せしめ、個人の自由と責任を自覚して規律を遵守し、人類福祉の増進と社会の進展に積極的に貢献する技術者を養成することである(資料 1 - 1 - - 1)。

『本校の教育目的』は、準学士課程の工学基礎教育の上に専攻科課程の工学教育を通して、創造力と開発能力を兼ね備えた実践的技術者を養成することである(資料 1 - 1 - - 1)。準学士課程では、技術と技能の両面を有する人材、企画から設計・生産までの実務に携わる人材、問題解決型に留まらず問題発見ができる人材を養成すること(資料 1 - 1 - - 2)、専攻科課程では、2年間の高度な専門教育を行うことにより、人間性と創造性が豊かで研究開発能力を兼ね備え、これからの「ものづくり」「システムづくり」を先導できる実践的技術者を養成することを目的としている(資料 1 - 1 - - 3)。また、本校学則第 1 章総則第 1 条において、『本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする』と本校の目的を明確に定めている(資料 1 - 1 - - 4)。この目的を達成するために、開校以来の校訓である「誠実・進取・協調」にのっとり、自立的な人材の育成に主眼をおきながら、ものづくり・システムづくりの専門技術教育を推進することを『基本方針』としている(資料 1 - 1 - - 1)。

本校が『養成しようとする人材像』は、多角的視野を持ちつつ、実験・測定技術、数理的手法及び情報処理技術を基盤に、得意とする専門技術分野の基本的素養を持った「ものづくり」「システムづくり」に強い実践的な技術者である(資料 1 - 1 - - 1)。

本校では、上述した教育理念、教育目的、教育方針に基づき、実践的な技術者を養成するために以下に示す『学習・教育目標』を設定している(資料 1 - 1 - - 5)。

A. 豊かな人間性の涵養

国際的視野に立ち、地球環境や人類社会に及ぼす技術の影響を理解し、またその責任を自覚できる誠実で健全な心身を養う。

B. 工学知識・技術の修得

(B - 1) 数学、自然科学の基礎知識と実験・測定技術及び情報処理技術を修得し応用できる。

(B - 2) 得意とする専門分野の知識と技術を修得し、「連峰型教育」を活かした複合的専門基礎知識も身に付ける。

C. 地域社会への貢献

(C - 1) 協調性を発揮し、技術を創造・開発またはシステム化できるデザイン能力とものづくり能力を修得する。

(C - 2) 北東北の重点課題であるエネルギー・環境の問題に関心を持ち、それらの課題に積極的に取り組む、進取の姿勢を見につける。

D. コミュニケーション能力の習得

意思を明晰に相互伝達する日本語力と、国際社会に対応できる英語基礎力を身につける。

この学習・教育目標の具体的な評価を可能とするために、各々の学習・教育目標に対して客観的に評価可能な行動目標を（資料 1 - 1 - - 6）に示すように設定している。

資料 1 - 1 - - 1 「本校の教育方針」（抜粋）

2. 本校の教育方針

本校は、社会の多様な要請に応えるため、独自の教育目的を掲げ、創造力と開発能力を有する実践的な技術者も養成に努めています。この実現のため「産業システム工学」と名付けた教育プログラムにより、具体的な学習・教育目標設定して教育活動を展開し、自己点検し、教育改善を進めています。

教育目的

豊かな教養を基盤として、高等の専門技術科学を体得せしめ、個人の自由と責任を自覚して規律を遵守し、人類福祉の増進と社会の進展に積極的に貢献する技術者を養成することを教育理念としています。

本科の工学基礎教育の上に専攻科の工学教育を通して、創造力と開発能力を兼ね備えた実践的技術者を育成します。この目的を達成するために、「誠実・進取・協調」の校訓にのっとり、自立的な人材の育成に主眼をおきながら、ものづくり・システムづくりの専門技術教育を推進します。

養成しようとする技術者像

本校が、養成しようと考えている技術者像は、「多角的な視野を持ちつつ、実験・測定技術、数理的手法及び情報処理技術を基盤に、得意とする専門技術分野の基本的な素養を持った、『ものづくり』や『システムづくり』に強い実践的な技術者」です。

（出典 平成 17 年度学生便覧 p.3）

以下の資料にも同様な内容の記述があるが、省略する。

「本校の教育方針」（シラバス 平成 17 年度（準学士課程）p.1）

「本校の教育方針」（シラバス 平成 17 年度（専攻科課程）p.1）

「入学案内，教育方針等」（入学者募集要項 平成 17 年度 p.1, p.15～16）

「入学案内，教育方針等」（編入学者募集要項 平成 17 年度 p.1, p.11～13）

「教育方針」（専攻科募集要項 平成 17 年度 p.1）

「工業高等専門学校の目的，専攻科目的」（学校要覧 2004 p.2, p.9～12）

「専攻科」（学校案内 2004 p.23）

「専攻科の概要他」（専攻科 2004 p.1～p.4）

「八戸高専とは，専攻科」（キャンパスガイド 2004 p.2, p.6）

「シラバス，JABEE への取組み」

（Webサイト <http://www.hachinohe-ct.ac.jp/~syllabus/H17houshin.pdf>（八戸高専ホームページ））

資料 1 - 1 - - 2 「準学士課程」 (抜粋)

(前文)

前略

本科及び専攻科において育成しようとする具体的な技術者像は、以下のとおりである。

本科での人材育成

- ・ 技術と技能の両面を有する人材
- ・ 企画から設計・生産までの実務に携わる人材
- ・ 問題解決型に留まらず問題発見ができる人材

専攻科での人材育成

- ・ 理論を基礎とした高度な技術と技能を有する人材
- ・ 技術開発から設計・生産までの実務のみならず創造的な仕事ができる人材
- ・ 問題解決型に留まらず問題発見型及び提案型の人材

「以下略」

(出典 八戸工業高等専門学校中期計画 p.1)

資料 1 - 1 - - 3 「専攻科課程の目的」 (抜粋)

目的：本校専攻科は、5年一貫の高専教育の特徴を生かしながら、さらに2年間の高度な専門教育を行うことにより、人間性と創造性が豊かで研究開発能力を兼ね備え、これからの「ものづくり」「システムづくり」を先導できる実践的技術者の養成を行います。

(出典 学校案内 2005 p.23)

資料 1 - 1 - - 4 「八戸工業高等専門学校学則」 (抜粋)

第1章 総則

(目的)

第1条 本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(出典 平成17年度学生便覧 p.43)

資料 1 - 1 - - 5 「学習・教育目標」 (抜粋)

学習・教育目標

本校では、以下の A, B - 1, B - 2, C - 1, C - 2, D に示す学習・教育目標を設定していますが、これらは「豊かな人間性の涵養」、「工学知識・技術の修得」、「地域社会への貢献」、「コミュニケーション能力の修得」、の 4 つの骨格からなり、これらを有機的に結びつけているのが本校の伝統と成っている校訓「誠実・進取・協調」であり、精神的支柱の役割も果たしています。6 つの学習・教育目標は、講義、演習、実験実習、卒業研究・特別研究、校外実習・学外研修などカリキュラムを基礎とする教育活動で充分達成を図られます。学習・教育目標の達成を可能とするため目標毎に具体的な行動基準をそれぞれ設定しており、学習に取り組む際のめあてにしています。

A. 豊かな人間性の涵養

国際的視野に立ち、地球環境や人類社会に及ぼす技術の影響を理解し、またその責任を自覚できる誠実で健全な心身を養う。

B. 工学知識・技術の修得

(B - 1) 数学、自然科学の基礎知識と実験・測定技術および情報処理技術を修得し応用できる。

(B - 2) 得意とする専門分野の知識と技術を修得し、「連峰型教育」を活かした複合的専門基礎知識も身に付ける。

C. 地域社会への貢献

(C - 1) 協調性を発揮し、技術を創造・開発またはシステム化できるデザイン能力とものづくり能力を修得する。

(C - 2) 北東北の重点課題であるエネルギー・環境の問題に関心を持ち、それらの課題に積極的に取り組む、進取の姿勢を見につける。

D. コミュニケーション能力の習得

意志を明晰に相互伝達する日本語力と、国際社会に対応できる英語基礎力を身につける。

「以下略」

(出典 専攻科 シラバス 平成 17 年度授業計画 p.1)

以下の資料にも同様な内容の記述があるが、省略する。

「学習・教育目標」(平成 17 年度学生便覧 p.3~p.4)

「学習・教育目標」(平成 17 年度シラバス(準学士課程) p.1~p.5)

「本校の学習・教育目標」(入学者募集要項 平成 17 年度 p.16)

「本校の学習・教育目標」(編入学者募集要項 平成 17 年度 p.12)

「本校の学習・教育目標」(専攻科募集要項 平成 17 年度 p.10)

「学習・教育目標」(学校要覧 2004 p.3)

「シラバス, JABEE への取り組み」

(Webサイト <http://www.hachinohe-ct.ac.jp/~syllabus/16-jabee.htm> (八戸高専ホームページ))

資料 1 - 1 - - 6 「学習・教育目標と行動目標」 (抜粋)

A 豊かな人間性の涵養		
(A)	目標	国際的視野に立ち、地球環境や人類社会に及ぼす技術の影響を理解し、またその責任を自覚できる、誠実で健全な心身を養う。
	行動基準	(A-1)地球上の人々の相互依存関係について理解し、説明できる。 (A-2)世界には多様な文化が存在していることを理解し、それらの価値観の多様性を認められる。 (A-3)技術が地球環境や人類社会にもたらす影響に関して理解し説明できる。 (A-4)誠実で健全な心身を保ち、生涯にわたって自分で新しい知識や適切な情報を獲得して行くことの重要性を理解し、基礎的な学習能力を獲得できる。
B 工学知識・技術の修得		
(B-1)	目標	数学、自然科学の基礎知識と実験・測定技術および情報処理技術を修得し応用できる。
	行動基準	(B-1-1)数学、自然科学、情報処理に関する基礎知識を修得する。 (B-1-2)計画的に実験を行い、データを測定・整理・図示し、説明することができる。 (B-1-3)数理的手法やコンピュータを使ってデータの解析ができる。 (B-1-4)自然現象の規則性を見出し、その重要性を説明できる。
(B-2)	目標	得意とする専門分野の知識と技術を修得し、「連峰型教育」を活かした複合的専門基礎知識も身につける。
	行動基準	(B-2-1)設計・システム系、情報・論理系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学を修得する。 (B-2-2)機械工学、電気工学、物質工学、建設環境工学のいずれかの専門分野の知識と技術を修得する。 (B-2-3)関連する異分野の基本的な用語を理解でき、専門分野との関連性や意義を理解し説明できる。 (B-2-4)複合的な問題に対して専門分野以外にどのような知識や技術が必要であるかを理解できる。
C 地域社会への貢献		
(C-1)	目標	協調性を発揮し、技術を創造・開発またはシステム化できるデザイン能力とものづくり能力を修得する。
	行動基準	(C-1-1)責任と義務を共有し、状況に応じて異なる役割を担うことができる。 (C-1-2)実現可能な複数のアイデアを客観的に分析できる。 (C-1-3)問題解決のために、数学的、科学的、工学的な知識とスキルを応用できる。 (C-1-4)課題解決に必要な材料、装置、システム等を与えられた制約の下で企画・設計し、作り、活用することができる。
(C-2)	目標	北東北の重点課題であるエネルギー、環境の問題に関心を持ち、それらの課題に積極的に取り組む、進取の姿勢を身につける。
	行動基準	(C-2-1)地域社会や国際社会における多くの人との関わりの中で仕事をする事から、挨拶、会話継続的な自己学習、共同作業ができる。 (C-2-2)エネルギー関連科目や環境関連科目を学び、循環型社会を形成する仕組みを身につける。 (C-2-3)異分野の情報を取り入れ、専門分野の知識と技術を応用して地域の複合的な諸課題の解決策を提案できる。
D コミュニケーション能力の習得		
(D)	目標	意思を明晰に相互伝達する日本語力と、国際社会に対応できる英語基礎力を身につける。
	行動基準	(D-1)実験・実習、卒業研究や特別研究の報告書を論理的にまとめ、分かりやすく記述できる。 (D-2)他者と伝達すべき情報を、日本語では明晰に、英語では簡潔に意思伝達できる。

(出典 専攻科 シラバス 平成 17 年度授業計画 p.5)

(出典 準学士課程 シラバス 平成 17 年度授業計画 p.5)

また、上述の八戸高専の教育目的、学習・教育目標に基づき、準学士課程（一般科目並びに4学科）及び専攻科課程（一般科目・専攻共通科目並びに3専攻）において各々、独自の教育目的及び学習・教育目標を（資料1-1-7～15）に示すように設定し、シラバスに記載している。

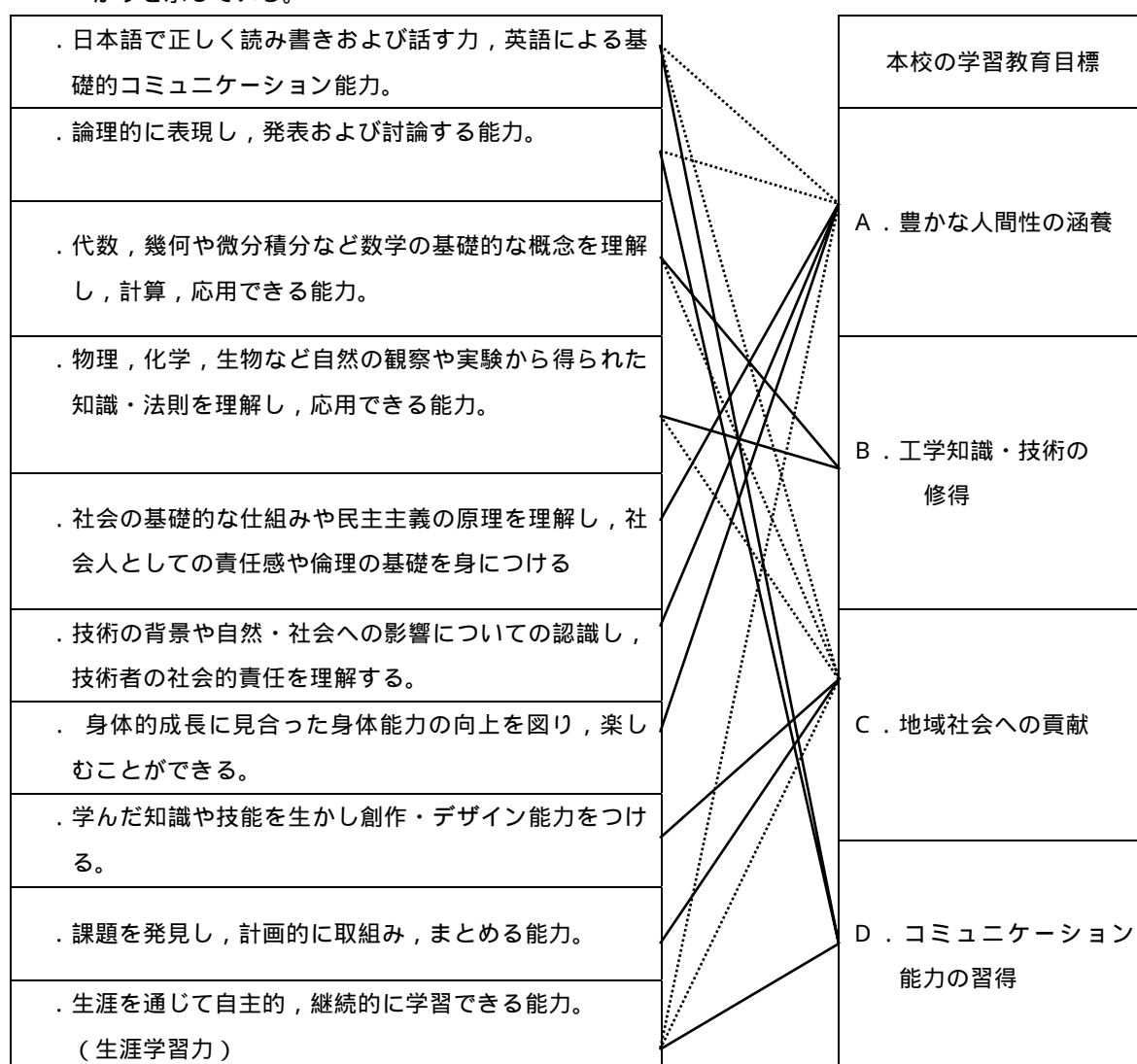
資料1-1-7 「準学士課程、一般科目の教育目的と学習・教育目標」

○教育目的

一般科目においては15歳から20歳という人間の発達過程のたいへん変化に富む時期に、健全で豊かな人間形成を行い、生涯の発達の基礎的な力を形成することが目的である。その具体的内容は次の学習・教育目標に示されている。

○一般科目の学習・教育目標

下の表が学習・教育目標の内容を表しており、線の連結で右側の八戸高専の学習・教育目標とのつながりを示している。



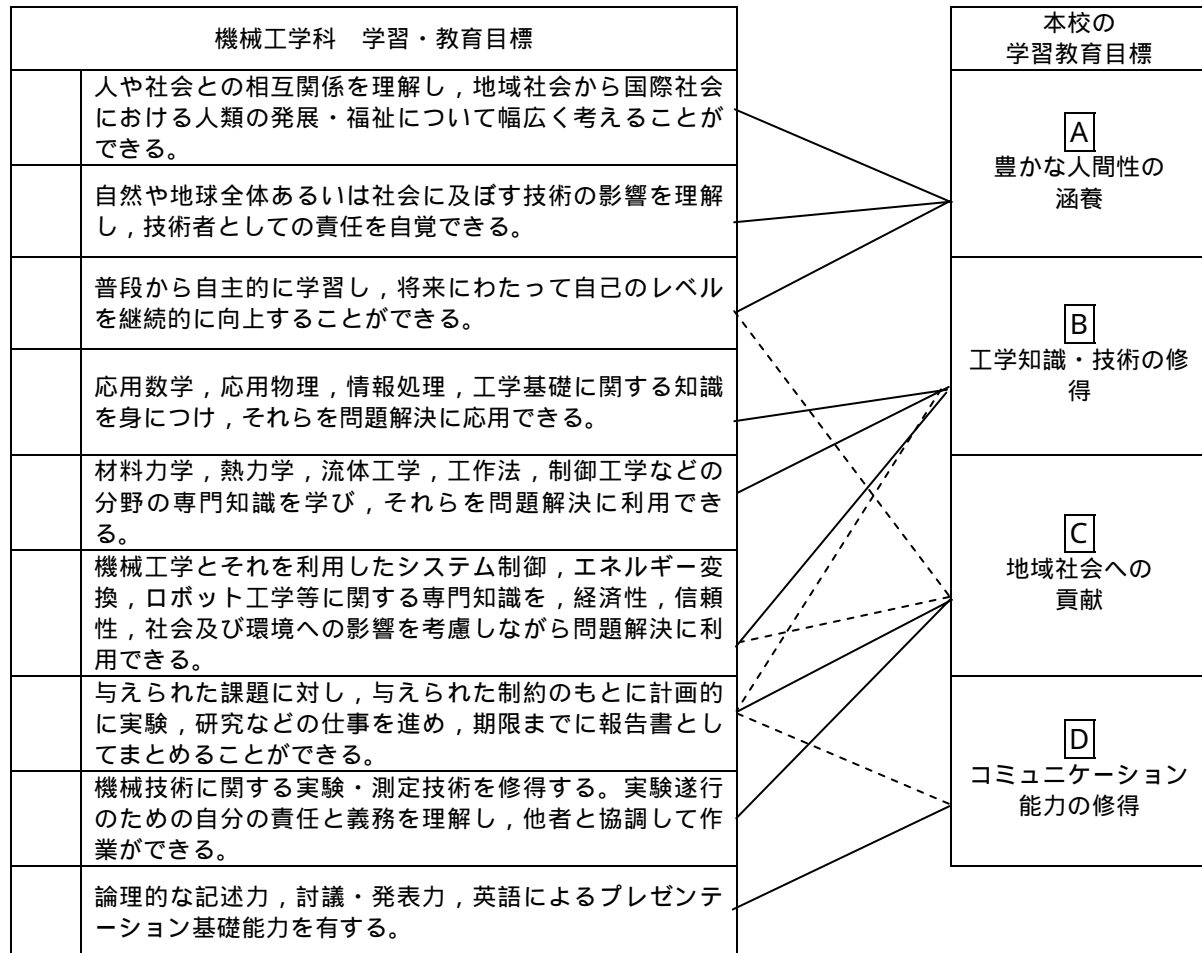
(出典 準学士課程 シラバス 平成17年度授業計画 p.G1)

資料 1 - 1 - - 8 「準学士課程，機械工学科の教育目的と学習・教育目標」

教育目的

幅広い視野と豊かな人間性をそなえ，機械工学とその応用分野に関する高度な知識と技術を身につけ，創造力に溢れた，ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

学習・教育目標



(出典 シラバス 平成 17 年度授業計画 準学士課程 p.M1)

資料 1 - 1 - 9 「準学士課程，電気情報工学科・電気工学科の教育目的と学習・教育目標」

○教育目的：

人類の福祉への貢献，社会的ニーズに対応できるものづくりやシステム作りを目指して，幅広い視野と豊かな人間性をそなえ，電気情報工学とその応用に関する高度な知識と技術を身につけ，創造力にあふれた，ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

○学習・教育目標：

電気情報工学科・電気工学科の学習・教育目標		本校の学習・教育目標	
()	人類の福祉，社会的ニーズ，地球環境への配慮，地域の課題等に多角的視野を持ち，豊かな教養を有する。	A	豊かな人間性の涵養
()	技術者倫理を学生自身の中に育む。		
()	電気情報工学に関する基本的な実験・測定技術，数理的手法，情報処理技術を十分身につける。	B	工学知識・技術の修得
()	専門工学につながる基礎知識である自然科学の基礎（物理・化学・生命科学）と基礎工学（設計・システム系，情報・論理系，材料・パイオ系，力学系及び社会技術系）の基礎知識を有する。		
()	エネルギー，エレクトロニクス，情報通信の3分野に関する専門知識を技術的課題に利用できる。		
()	与えられた課題に対して計画的に仕事ができる。	C	地域社会への貢献
()	他の技術者と協調しながら，自ら創意工夫してものづくりやシステムづくりができる。		
()	論理的な記述力，討議発表力，英語力を有し，自主的・継続的に自己を伸ばせる。	D	コミュニケーション能力の習得
()	電気情報工学の基礎となる数学，物理，専門基礎に関する知識を身につける。		
()	環境，経済性，安全性を考慮できる。		

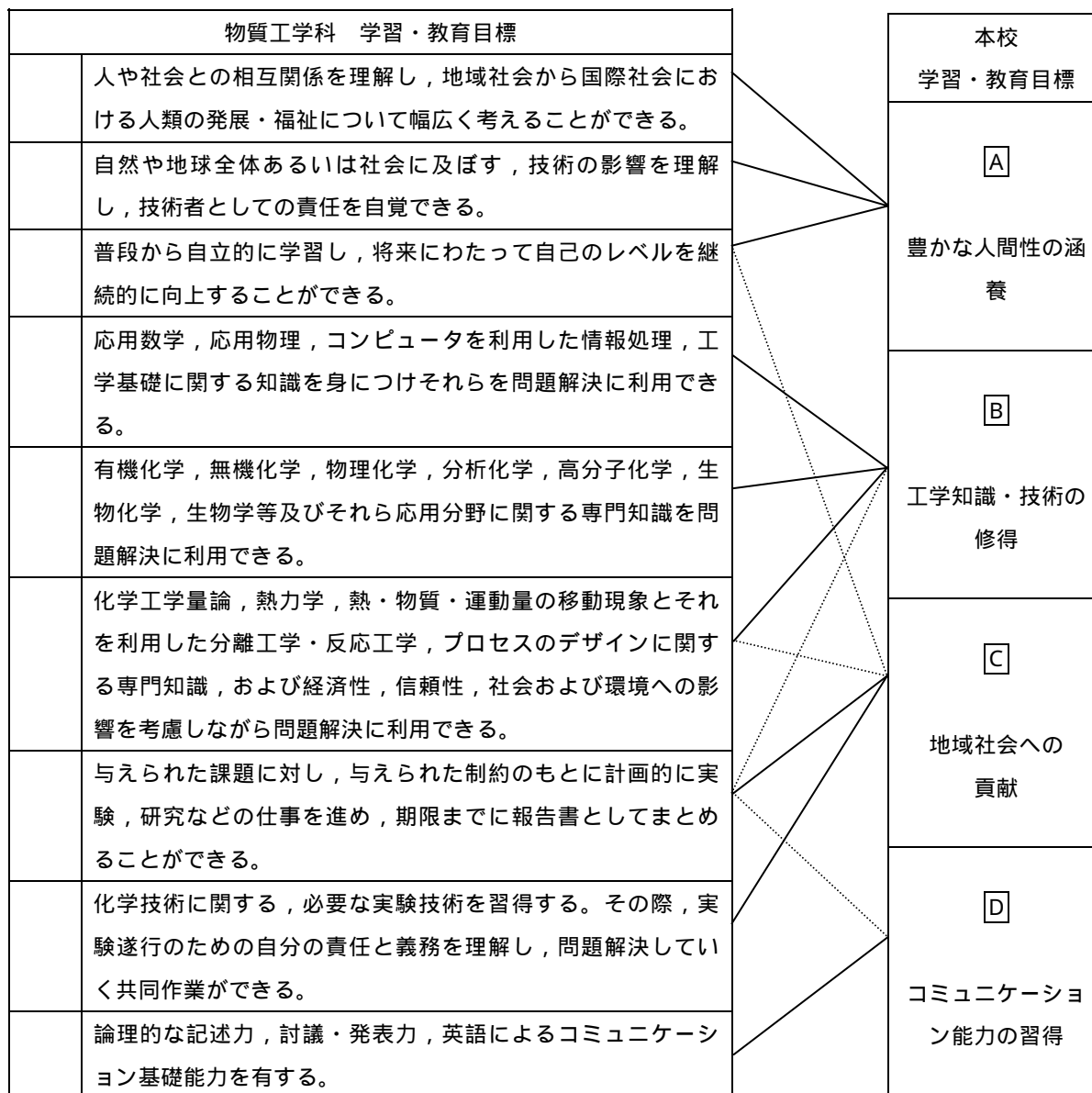
(出典 シラバス 平成 17 年度授業計画 準学士課程 p.E1)

資料 1 - 1 - - 10 「準学士課程，物質工学科の教育目的と学習・教育目標」

○教育目的

幅広い視野と豊かな人間性をそなえ，生物工学を含む化学とその応用分野に関する知識と技術を身につけ，ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

○学習・教育目標



(出典 シラバス 平成 17 年度授業計画 準学士課程 p.C1)

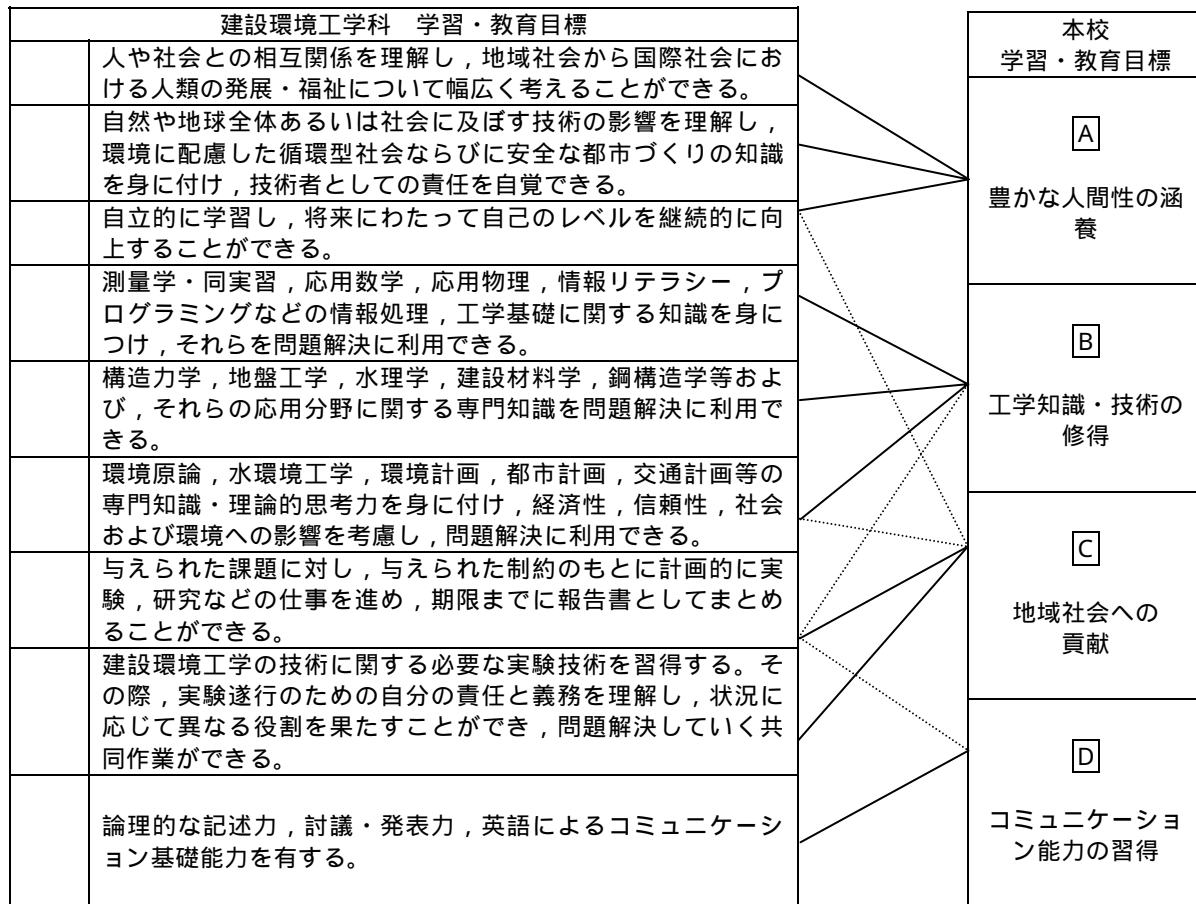
資料 1 - 1 - - 11 「準学士課程，建設環境工学科の教育目的と学習・教育目標」

○教育目的

幅広い視野と豊かな人間性をそなえ，建設環境工学とその応用分野に関する知識と技術を身につけ，創造性に溢れた，ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

従来，土木技術者は様々な社会的要請に応えるため，高度な建設技術の開発を行うことにより技術的な問題を解決して多くの土木構造物を建設してきました。しかし，国民は生活および文化を支える施設の社会基盤建設だけでなく，”心の豊かさ・生活の潤い”を求めるようになり，従来の土木工学の分野よりもより広範囲でよりソフト的な分野である環境の保全，快適環境の創造，社会資本の整備等が土木工学の分野に要請されるようになりました。地球環境を保全し，環境と開発の統合を通じた「持続可能な開発」を実現することが人類共通の命題になってきました。これらの現状を踏まえて，伝統的な土木工学分野のほかに自然環境・社会環境・計画・情報に関する分野を学習し，多様な社会的要求に応えられる技術者の養成を目的としています。

○学習・教育目標



(出典 シラバス 平成 17 年度授業計画 準学士課程 p.Z1)

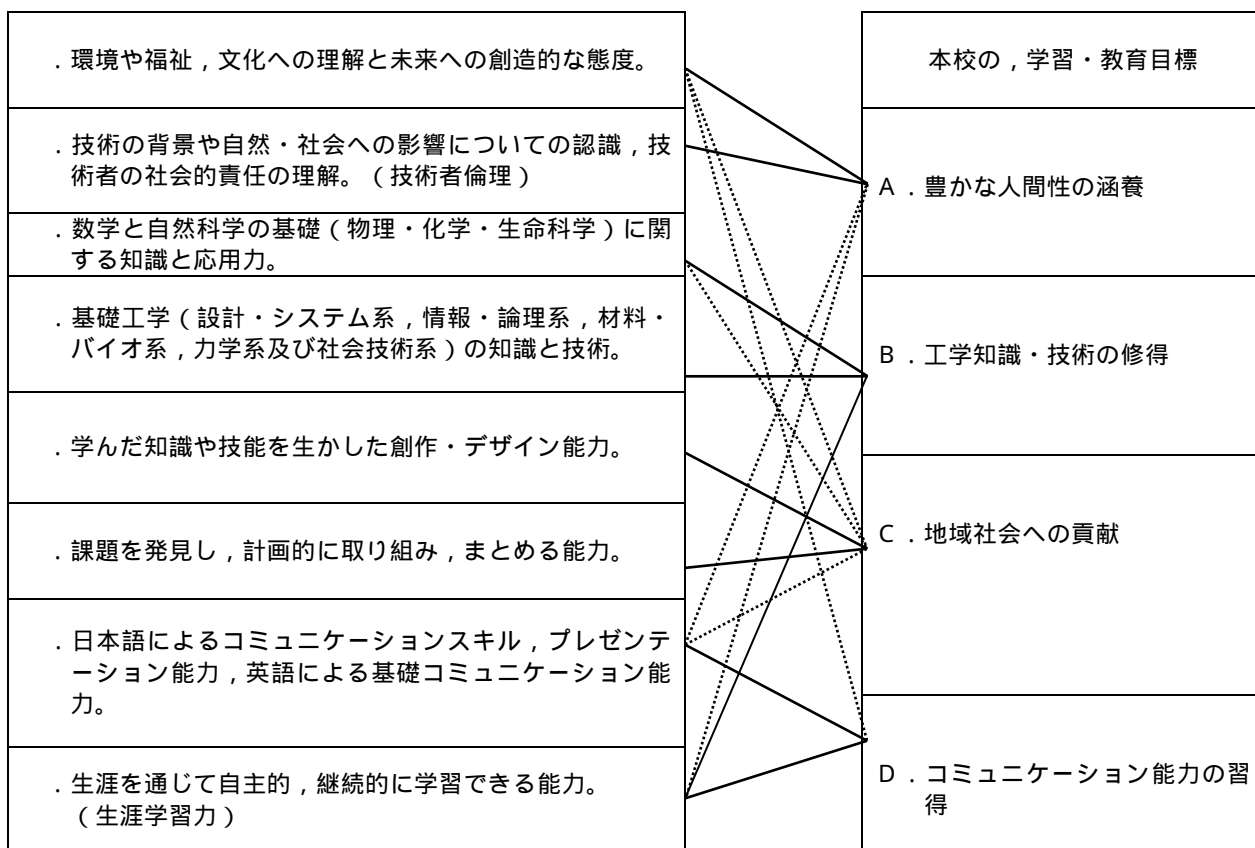
資料 1 - 1 - - 12 「専攻科，一般科目・専攻共通科目の教育目的と学習・教育目標」

○教育目的

健全で豊かな人間形成を行い，生涯の発達の基礎的な力を形成することが一般科目の教育の目的である。また，専門教科において学習を推進していくための専門基礎学力を形成し，生涯学習社会において必要とされる学習能力や，問題解決能力の基礎を形成する。

○一般科目・専攻共通科目学習・教育目標

下の表が学習・教育目標の内容を表しており，線の連結で右側の八戸高専の学習・教育目標とのつながりを示している。



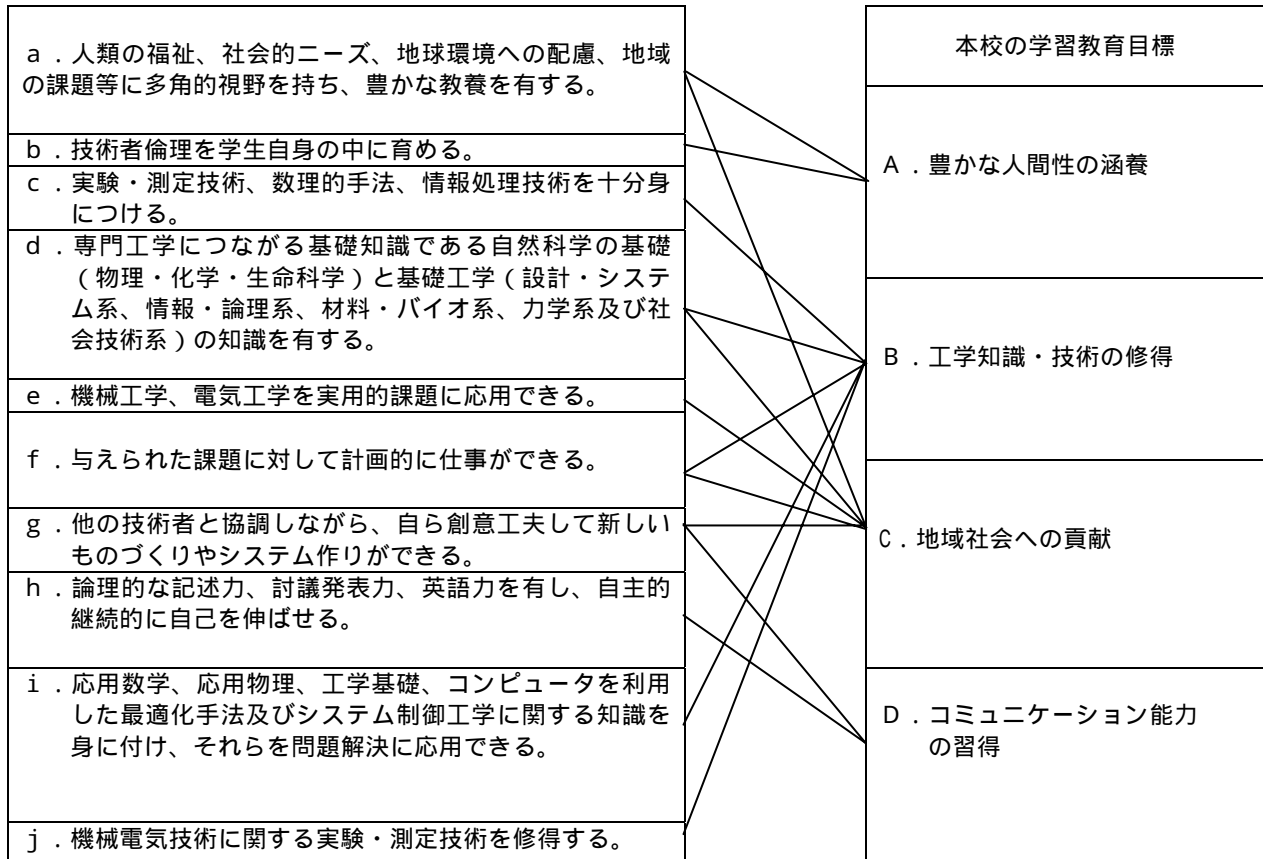
（出典 シラバス 平成 17 年度授業計画 専攻科 p.30）

資料 1 - 1 - - 13 「専攻科，機械・電気システム工学専攻の教育目的と学習・教育目標」

○教育目標

人類の福祉への貢献、社会的ニーズに対応できるものづくりやシステム作りを目指して、幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、機械工学及び電気情報工学とその応用分野に関する高度な知識と技術を身につけ、創造力にあふれた、ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

○学習・教育目標



(出典 シラバス 平成 17 年度授業計画 専攻科 p.61)

資料 1 - 1 - - 14 「専攻科，物質工学の教育目的と学習・教育目標」

○教育目的

幅広い視野と豊かな人間性をそなえ、生物工学を含む化学とその応用分野に関する高度な知識と技術を身につけ、創造力にあふれた、ものづくりに強い実践的技術者を育成する。

○学習・教育目標

物質工学専攻 学習・教育目標		本校 学習・教育目標
人や社会との相互関係を理解し、地域社会から国際社会における人類の発展・福祉について幅広く考えることができる。		[A] 豊かな人間性の涵養
自然や地球全体あるいは社会に及ぼす、技術の影響を理解し、技術者としての責任を自覚できる。		[B] 工学知識・技術の修得
普段から自立的に学習し、将来にわたって自己のレベルを継続的に向上することができる。		[C] 地域社会への貢献
応用数学、応用物理、コンピュータを利用した情報処理、工学基礎に関する知識を身につけそれらを問題解決に利用できる。		[D] コミュニケーション能力の習得
有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、高分子化学、生物化学、生物学等及びそれら応用分野に関する専門知識を問題解決に利用できる。		
化学工学量論、熱力学、熱・物質・運動量の移動現象とそれを利用した分離工学・反応工学、プロセスのデザインに関する専門知識、および経済性、信頼性、社会および環境への影響を考慮しながら問題解決に利用できる。		
与えられた課題に対し、与えられた制約のもとに計画的に実験、研究などの仕事を進め、期限までに報告書としてまとめることができる。		
化学技術に関する、必要な実験技術を習得する。その際、実験遂行のための自分の責任と義務を理解し、問題解決していく共同作業ができる。		
論理的な記述力、討議・発表力、英語によるコミュニケーション基礎能力を有する。		

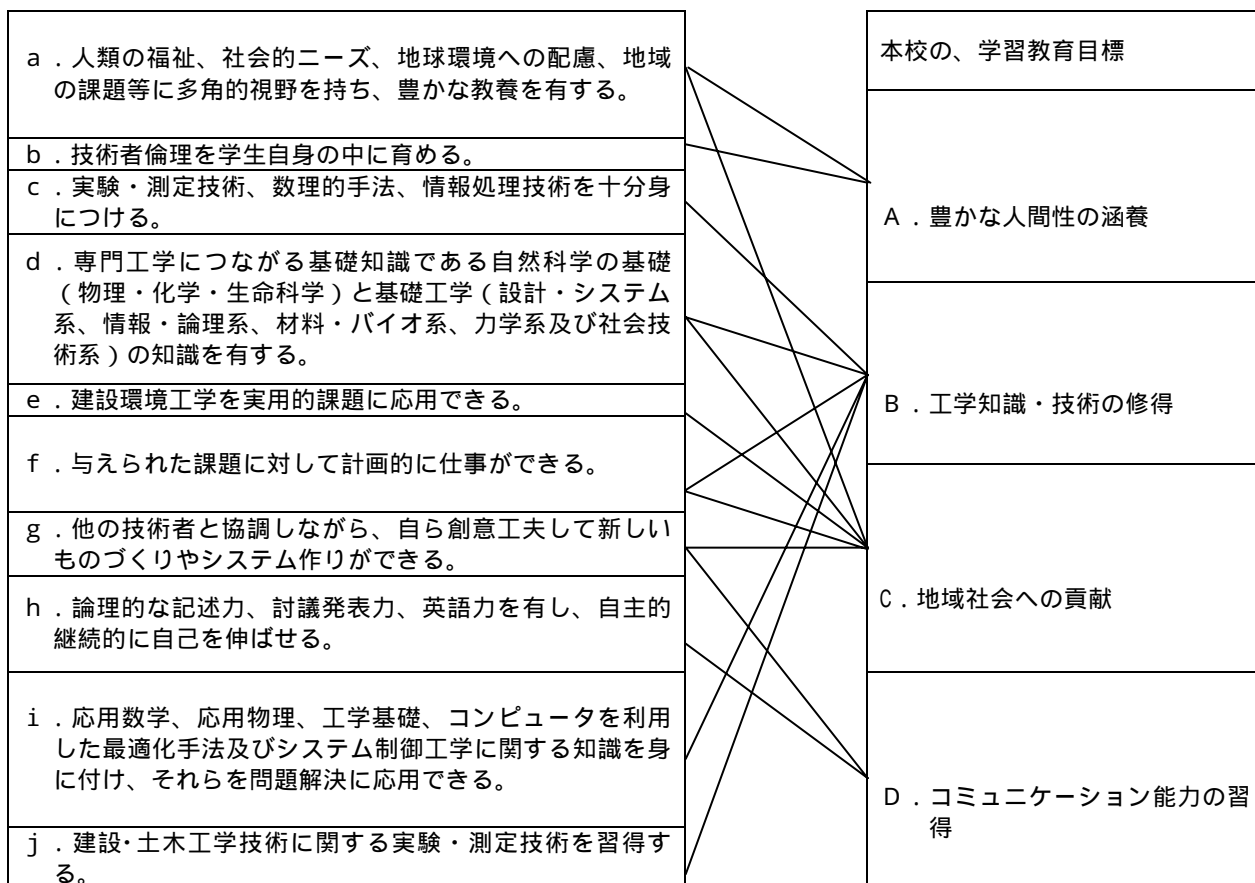
(出典 シラバス 平成 17 年度授業計画 専攻科 p.95)

資料 1 - 1 - - 15 「専攻科，建設環境工学専攻の教育目的と学習・教育目標」

教育目標

自然との調和を保ちながら快適に生活できる国土建設を目的とした力学系科目・環境・防災・情報を考慮した建設環境工学（土木工学）を教授し、開発と環境保全を総合的に解決できる能力を持ち、創造力溢れる総合建設技術者や開発型の実践的技術者の人材養成することを目的としています。

学習・教育目標



（出典 シラバス 平成 17 年度授業計画 専攻科 p.117）

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的として、教育目的，教育目標，養成しようとする人材像，八戸高専の学習・教育目標を明確に定めている。また，これに対応した形で，準学士課程（4 学科）及び専攻科課程（3 専攻）の教育目的，学習・教育目標を具体的に定めている。

以上のことから，本校は目的を明確に定めている。

観点 1 - 1 - : 目的が，学校教育法第 70 条の 2 に規定された，高等専門学校一般に求められる目的から，はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

八戸工業高等専門学校学則第1章総則第1条において、『本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする』と目的を明確に定めている(資料1-1-4)。学校要覧等にも、本校の目的を「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する独創的な人材の育成」と「我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展」を図ることと記載している(資料1-1-1)。このように、上述の目的及びそれを実現するために設定した学習・教育目標は、学校教育法第70条の2に定められた目的、すなわち「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」からはずれるものではない。

資料1-1-1 「工業高等専門学校の目的」(抜粋)

工業高等専門学校の目的

高等専門学校は、我が国の産業の発展と科学技術教育のより一層の振興を図るために、昭和37年に創設された高等教育機関です。平成16年度から独立行政法人国立高等専門学校の設置する学校となり、「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する独創的な人材の育成」と「我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展」を図ることを目的としています。

「以下略」

(出典 学校要覧2004 p.2)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的及びそれを実現するために設定した学習・教育目標は、学校教育法第70条の2に定められた目的からはずれるものではない。

観点1-2- : 目的が、学校の構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点に係る状況)

本校の目的を記載した学生便覧、シラバス(準学士課程)、シラバス(専攻科課程)、学校要覧、学校案内、キャンパスガイド、専攻科案内は、毎年更新し、教職員に配布している。また、必要に応じて、教員会議で周知するほか、中学校訪問時に持参する資料(学校要覧、学校案内、キャンパスガイド等)について教員を対象とした説明会を実施している。新任教員に対しては、4月に研修会を実施し本校の教育目的等に関してガイダンスを行っている(資料1-2-1)。全学生に対しては、始業式当日に学生便覧、シラバス等を配布している。更に、4学年生に対しては進級式(資料1-2-2)を、専攻科生(1,2年生)に対しては専攻科ガイダンス(資料1-2-3~4)を各々実施し、本校の学習教育目標等の説明を行っている。新入生に対しては、入学者研修会を実施し、資料の配布とガイダンスを行っている(資料1-2-5)。

本校の目的は印刷物を通して教職員及び学生に周知されているが、Webサイトに掲載されていて、教職員及び学生は常時、アクセスが可能であり、周知されている(資料1-2-6)。

資料 1 - 2 - - 1 「平成 17 年度 新任教職員研修会実施要項」 (抜粋)

1. 研修の目的 新任の教職員に対し、高専の教職員としての職務遂行に必要な基礎知識を授け、教育関係法規等を理解させ、もって高専教職員としての資質の向上を図ることを目的とする。
2. 研修日時: 【校長・各主事関係】平成 17 年 4 月 5 日(火)13:00～15:30
【事務関係】平成 17 年 4 月 14 日(木)9:00～10:30
3. 研修会場: 本校小会議室及び応接室
(事務担当係からの諸手続き説明: 4 月 4 日(月)13:00～13:30)
4. 研修内容, 講師及び日程

	13:00	13:05～13:35	13:35～14:15	14:15～15:45	14:45～15:15	
4 月 5 日	開講式	高専職員に望まれること(校長)	学生の教育について(教務主事)	学生の厚生補導について(学生主事)	学寮での指導について(寮務主事)	閉講式
		9:00～10:00		10:00～10:30		
4 月 14 日		高専機構と関係について(庶務課長・人事係長)		セクシャルハラスメントの防止及び安全管理について(庶務課長)		

5. 研修受講対象者
「以下略」

資料 1 - 2 - - 2 「平成 17 年度第 4 学年進級式実施要項」 (抜粋)

- 日 時: 平成 17 年 4 月 8 日(金) 始業式(対面式)終了後 10:40～11:10
- 場 所: 合併教室
- 出席教員: 校長, 教務主事, 産業システム工学プログラム計画委員長, 専攻科長, 5 学科長
第 4 学年担任, 3 教務主事補, 学生課長
- 対象学生: 本科第 4 学年生全員(留学生含む)
- 次 第 進行 教務主事補
- 1) 開式
 - 2) 校長講話
 - 3) 産業システム工学プログラム計画委員長説明
- 本校の学習・教育目標と産業システム工学プログラム及び JABEE 等について -
 - 4) 閉式

資料 1 - 2 - - 3 「平成 17 年度 専攻科新入生ガイダンス実施要項」

日 時： 平成 17 年 4 月 6 日(水) 13:00～16:00

場 所： 合併教室

配布資料： 学生証，在学証明書，学生便覧，シラバス，単位修得確認簿，学習等達成度記録，
「新しい学士への途」，入学者名簿，選択科目履修一覧，前期時間割

出席教員： 校長，専攻科長，産業システム工学プログラム計画委員長，教務主事，副専攻科長
専攻主任（副主任），専攻科委員，学生課長

次 第 進行 学生課長

- 1) 校長挨拶 2) 専攻科長挨拶
- 3) 産業システム工学プログラム計画委員長概要説明
- 本校の学習・教育目標と産業システム工学プログラム及び JABEE 等について -
- 4) 副専攻科長，各専攻主任及び AS 専攻副主任，専攻科委員の紹介 「以下略」

資料 1 - 2 - - 4 「平成 17 年度 専攻科 2 年生ガイダンス実施要項」

日 時： 平成 17 年 4 月 8 日(水) 13:30～16:00

場 所： 合併教室

受 付： 13:20～13:30

配布資料： 学生証，学生便覧，シラバス，単位修得確認簿，学習等達成度記録，
「新しい学士への途及び学位授与申請書」

出席者： 校長，専攻科長，産業システム工学プログラム計画委員長，教務主事，副専攻科長
専攻主任（副主任），専攻科委員，学生課長

次 第 進行 学生課長

- 1) 校長挨拶 2) 専攻科長挨拶
- 3) 産業システム工学プログラム計画委員長概要説明
- 本校の学習・教育目標と産業システム工学プログラム及び JABEE 等について -
- 4) 副専攻科長，各専攻主任及び AS 専攻副主任，専攻科委員の紹介
- 5) 事務連絡

専攻毎ガイダンス（15:00～ ）

AS： AS（M） 専攻講義室， AS（E） 専攻演習室（1）（2）

AC： 専攻演習室（3） AZ： 専攻演習室（4）

資料 1 - 2 - - 5 「平成 17 年度入学者研修会実施要項」 (抜粋)

1. 日 時 平成 17 年 4 月 7 日(木) 8:45 ~ 16:00
 2. 対 象 第 1 学年生 163 名 (留年生含む)
 3. 日 程

* ホームルーム				
時 間		事 項	担当者	場所
8:45 ~ 9:45	60 分	学生便覧・シラバス・単位履修確認簿 学習等達成度記録簿・入学者研修会の日程 等事前配布資料の説明。(学生便覧・シラ バス・単位履修確認簿等は入学式当日 H R 教室で配布	学級担任	1 階 H R 教室
* オリエンテーション				
時 間		事 項	担当者	場所
10:00 ~ 10:20	20 分	教務全般について	教務主事	3 階合併
10:25 ~ 10:45	20 分	厚生補導全般について	学生主事	
10:50 ~ 11:10	20 分	学生相談室について	学生相談 室長	
* 図書館ガイダンス		時間 11:20 ~ 12:00 (40 分)	図書係	同上
* 専門学科ガイダンス		時間 13:00 ~ 13:50 (50 分)	各学科長	各学科
* ホームルーム		時間 15:30 ~ 16:00 (30 分)	学級担任	H R 教室

「以下略」

資料 1 - 2 - - 6 「本校の教育方針」 (抜粋)

本校は、社会の多様な要請に応えるために、独自の教育目的を掲げ、創造力と開発能力を有する実践的技術者の育成に努めています。この実現のため「産業システム工学」と名付けた教育プログラムにより、具体的な学習教育目標を設定して教育活動を展開し、自己点検し、教育改善を進めています。

教育目的

豊かな教養を基盤として、高等の専門技術科学を体得せしめ、個人の自由と責任を自覚して規律を遵守し、人類福祉の増進と社会の進展に積極的に貢献する技術者を養成することを教育理念としています。

本科の工学基礎教育の上に専攻科の工学教育を通して、創造力と開発能力を兼ね備えた実践的技術者を育成します。この目的を達成するために、「誠実・進取・協調」の校訓にのっとり、自立的な人材の育成に主眼をおきながら、ものづくり・システムづくりの専門技術教育を推進します。

養成しようとする技術者像

本校が、養成しようと考えている技術者像は、「多角的な視野を持ちつつ、実験・測定技術、数理的手法及び情報処理技術を基盤に、得意とする専門技術分野の基本的な素養を持った、『ものづくり』や『システムづくり』に強い実践的な技術者」です。

学習教育目標

本校では、6つの学習・教育目標を設定していますが、これらは「豊かな人間性の涵養」、「工学知識・技術の修得」、「地域社会への貢献」、「コミュニケーション能力の修得」、の4つの骨格からなり、これらを有機的に結びつけているのが本校の伝統と成っている校訓「誠実・進取・協調」であり、精神的支柱の役割も果たしています。6つの学習・教育目標は、講義、演習、実験実習、卒業研究・特別研究、校外実習・学外研修などカリキュラムを基礎とする教育活動で充分達成を図られます。学習・教育目標の達成を可能とするため目標毎に具体的な行動基準をそれぞれ設定しており、学習に取り組む際のめあてにしています。

A. 豊かな人間性の涵養

国際的視野に立ち、地球環境や人類社会に及ぼす技術の影響を理解し、またその責任を自覚できる誠実で健全な心身を養う。

B. 工学知識・技術の修得

(B-1) 数学、自然科学の基礎知識と実験・測定技術および情報処理技術を修得し応用できる。

(B-2) 得意とする専門分野の知識と技術を修得し、「連峰型教育」を活かした複合的専門基礎知識も身に付ける。

C. 地域社会への貢献

(C-1) 協調性を発揮し、技術を創造・開発またはシステム化できるデザイン能力とものづくり能力を修得する。

(C-2) 北東北の重点課題であるエネルギー・環境の問題に関心を持ち、それらの課題に積極的に取り組む、進取の姿勢を見につける。

D. コミュニケーション能力の習得

意志を明晰に相互伝達する日本語力と、国際社会に対応できる英語基礎力を身につける。

(出典 Webサイト <http://www.hachinohe-ct.ac.jp/~syllabus/syllabus.htm> (八戸高専ホームページ) シラバス)

Webサイトの以下の項においても本校の教育目的に関する記述があるが省略する。

(J A B E E への対応) (専攻科入学)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的を記載した印刷物を学校構成員(教職員・学生)に配布し周知している。また、Webサイトにも掲載しており、目的を学校の構成員(教職員及び学生)に周知している。

観点 1 - 2 - : 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の目的を記載した学生便覧，シラバス，学校要覧等は，他高専，関係する大学，県内図書館，県内教育委員会，県内商工会議所等に毎年配布し公表している。また，学校要覧は，前年度卒業生が就職した企業，求人に来校した企業等にも配布している（資料 1 - 2 - - 1）。毎年 6～7月に行っている青森県全域及び岩手県北を対象とする中学校訪問では，学校要覧，学校案内，専攻科案内，キャンパスガイド（学校案内パンフレット），募集要項（抜粋）を持参・配布・説明している。特にキャンパスガイドは，3 学年生徒及び教員全員に配布し公表している（資料 1 - 2 - - 2）。工業高校訪問も毎年実施し，関係資料を配布し公表している（資料 1 - 2 - - 3）。青森県内及び岩手県内で実施する入学者選抜懇談会で，中学校進路指導教員に資料を配布・説明し，公表している（資料 1 - 2 - - 4）。体験入学では，中学生，中学教員，保護者に対して資料を配布し，学校説明を行い公表している（資料 1 - 2 - - 5）。本校の目的は，入学者募集要項，編入学者募集要項，専攻科募集要項にも記載し，受験生に対しても公表している（資料 1 - 2 - - 6）。

本校の目的は Web サイトに掲載されていて，常時，アクセス可能である（資料 1 - 2 - - 6）。

資料 1 - 2 - - 1 「配布先リスト（他大学・他高専等への配布先一覧）」（抜粋）

配布先	学校要覧	学生便覧	センター報	シラバス
国会図書館	5		5	
科学技術振興事業団	1		1	
文科省大臣官房総務課	2 5		2 5	
国立高専機構	2		2	
北海道大学	1		1	
以下略				
高専（58 高専）	5 8	5 8	5 8	5 8
県内教育委員会	8		8	
県内図書館	8		8	
以下略				
合計	2 0 0 0	5 8	1 2 9	5 8

資料 1 - 2 - - 2 「中学校訪問・配布先(説明)資料一覧(中学校訪問資料)」(抜粋)

	資料名	中学校への配布	備考
1	平成 17 年度学生募集ポスター	1 枚	
2	2 0 0 4 学校案内	3 年学級数 × 2 + 3	
3	2 0 0 4 CAMPUS GUIDE	3 年生徒数 + 教員数	
4	2 0 0 4 専攻科案内	2 部	
5	平成 1 6 年度入試問題・解答	3 年学級数	
6	以下 略		

訪問地区表

	地区	地域名	対象学校数
青 森 県	三 八	八戸市	2 2
	三 八	三戸郡	1 9
	上 北	十和田市, 三沢市, 上北町	3 4
	下 北	むつ市, 下北郡	2 4
	東 青	青森市, 東津軽郡	2 8
	西 北	五所川原市, 西・北津軽郡	2 3
	中 南	弘前市, 黒石市, 中・南津軽郡	3 4
岩 手 県	内 陸	二戸市, 二戸郡, 岩手郡	2 7
	沿 岸	久慈市, 九戸郡, 下閉伊郡	3 8
	県 央	盛岡市, 岩手郡, 紫波郡	3 3
	県 南	花巻市, 北上市, 和賀郡他	2 1
	計		3 0 3

資料 1 - 2 - - 3 「平成 16 年度工業高校訪問・配布資料一覧
(工業高校訪問計画)」 (抜粋)

	訪問高校名	訪問者	訪問時期	持参資料
1	青森工業	野沢尚武	6 月中旬 ~	編入学募集要項 2 部
2	弘前工業			学校紹介 1 部
3	五所川原工業			学校要覧 1 部
4	むつ工業	佐藤勝俊		学校案内 1 部
5	十和田工業	類家光雄		編入学試験問題 1 式
6	福岡工業			MEZパンフ 各 1 部 他
	計 11 校 以下 略			

資料 1 - 2 - - 4 「平成 16 年度入学者選抜懇談会実施要項」 (抜粋)

1. 会場・期日

会場	実施期日	会場
むつ	6月24日(水)	下北文化会館 第3集会室
青森	6月28日(月)	青森教育会館 202会議室
盛岡	6月29日(火)	盛岡市中央公民館 第1講義室
弘前	7月6日(火)	弘前市民会館 中会議室
八戸	7月8日(木)	八戸工業高等専門学校 (含む 施設見学会)

2. 日程

受付	12:00～12:20	
昼食	12:20～13:00	ビデオ上映・学校案内等説明
校長挨拶	13:00～13:15	
学科長説明	13:15～14:00	
質疑応答	14:10～15:10	

3. 配布資料 : 説明資料冊子, キャンパスガイド, 学校案内, M・Zパンフ, 専攻科パンフ
最近のニュース(新聞記事), 学校要覧

「以下略」

資料 1 - 2 - - 5 「平成 16 年度中学生一日体験入学実施要項」 (抜粋)

1. 期日・会場: 平成 16 年 7 月 24 日(土) 八戸工業高等専門学校

2. 配布資料

学校案内図, 中学生一日体験入学実施要項, 留意事項, 学科体験学習テーマ・実施場所一覧
アンケート用紙, 学寮日課表, 八戸高専入試早わかり, 募集要項(抜粋)
八戸高専の入試理念, 化学の学校, キャンパスガイド 2004, 学校案内 2004, 機械工学科案内
建設環境工学科案内, 専攻科案内

3. 日程

9:30～10:00	受付	第1体育館
10:00～10:25	ビデオ上映	第2体育館
10:30～10:35	校長挨拶	第2体育館
10:45～12:00	学科説明, 施設見学	第1希望学科(学科説明: 学科長)
12:00～13:00	昼食	質問コーナー, 学寮見学
13:00～14:00	施設見学	第2希望学科(学科説明: 学科長)
14:00～15:30	学科体験学習	自由体験学習又は見学(テーマ: 別紙の通り)

「以下略」

資料 1 - 2 - - 6 「教育方針」 (抜粋)

平成 17 年度入学者募集要項

本校では、豊かな教養を基盤として、高等の専門技術科学を体得せしめ、個人の自由と責任を自覚して規律を遵守し、人類福祉の増進と社会の進展に積極的に貢献する技術者を養成することを教育理念としています。本科の工学基礎教育の上に専攻科の工学教育を通して、創造力と開発能力を兼ね備えた実践的技術者を育成することを目的としています。

教育方針と日本技術者教育認定制度 (JABEE) への取り組み

本校は、社会の多様な要請に応えるため、独自の教育目的を掲げ、創造力と開発能力を有する実践的技術者の育成につとめています。この実現のため「日本技術者教育認定制度 (JABEE)」の認定に向けた以下の教育活動を行っておりますので、入学後は本校が設定する教育プログラムの履修者となることを了解の上応募してください。

「本校の教育理念と教育目的」

豊かな教養を基盤として、高等の専門技術科学を体得せしめ、個人の自由と責任を自覚して規律を遵守し、人類福祉の増進と社会の進展に積極的に貢献する技術者を養成することを教育理念とする。

本科の工学基礎教育の上に専攻科の工学教育を通して、創造力と開発能力を兼ね備えた実践的技術者を育成する。この目的を達成するために、「誠実・進取・協調」の校訓にのっとり、自立的な人材の育成に主眼をおきながら、ものづくり・システムづくりの専門技術教育を推進する。

「養成しようとする技術者像」

多角的な視野を持ちつつ、実験・測定技術、数理的手法及び情報処理技術を基盤に、得意とする専門技術分野の基本的な素養を持った、『ものづくり』や『システムづくり』に強い実践的な技術者。

「以下略」

(出典 平成 17 年度入学者募集要項 入学案内 p.1, p.15~p.17)

同様な記述が以下の資料にあるが、省略する。

「平成 17 年度編入学者募集要項 入学案内」

「平成 17 年度専攻科募集要項 入学案内」

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的を記載した複数の資料を中学校訪問、工業高校訪問、中学生 1 日体験入学、入学者選抜懇談会等で配布し、公表している。また Web サイトに掲載しており、目的を社会に広く公表している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

青森県内及び岩手県内での入学者選抜懇談会、中学生一日体験入学、中学校訪問、工業高校訪問、保護者懇談会等を実施し、本校の目的を積極的に社会に公表している。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校の目的として、教育目的、教育目標、養成しようとする人材像、本校の学習・教育目標を定めている。また、準学士課程 (4 学科) 及び専攻科課程 (3 専攻) における教育目的、学習・教育目標を独自に定めている。これらの内容は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された高等専門学校一般に求め

られる目的からはずれるものではない。

本校の目的は、学校要覧、学生便覧、シラバス（準学士課程、専攻科課程）等に記載し、それらを全教職員に、学生便覧並びにシラバスは全学生に配布し周知への取組みを行っている。これらの目的をWebサイトに掲載し、また入学者募集要項、編入学者募集要項、専攻科募集要項にも記載し広く公表している。中学校訪問や工業高校訪問を積極的に実施し、学校PRを行っている。その際、学校要覧、学校案内、専攻科案内等を青森県内及び岩手県北の全ての中学校及び工業高校等に持参・配布している。特にキャンパスガイドは中学校教員及び中学3学年生徒全員に配布しこれを公表している。また、中学校進路指導教員に対する入学者選抜懇談会等も実施し、社会に広く公表している。